

国土交通大臣 石井啓一 様
 国土交通省九州地方整備局長 増田博行 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
 ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
 代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

立野ダム事業に関する公開質問状(その9)

一昨年の熊本地震により立野峡谷では阿蘇大橋が崩落し、立野ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が、こんな危険な場所にもうダムは造られないと思いました。しかし、同年7月に国土交通省が設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、わずか3回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。委員には国交省から天下った人もいます。国交省が選んだ委員が、国交省の見解に異議を唱えるわけがありません。国交省は、そのような技術委員会の見解を「錦の御旗」に立野ダム建設を推し進め、住民の公開質問状にも答えず、ダム説明会さえ開かぬままに、ダム本体工事の入札を昨年10月26日に公告しました。

国交省は、「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。以下7点について質問します。1～6については当日、7については1月31日までに、文書での回答をお願いします。

記

1. 熊本地震により、立野ダム水没予定地の大半が崩壊した。立野溶岩の上に堆積した火山性堆積物が軒並み崩壊している。このままダムを建設し、ダムの水位が上がった場合、地滑りが起きることは明らかである。大半の場所でダム水没予定地の下まで降りられない中で、今後どのような土砂崩壊対策工事を行う予定なのか、明らかにすること。
2. 立野ダムの下部には幅5mの穴（放流孔）が開いているが、計画洪水の場合、流下する膨大な量の流木や土砂、岩石などのうち何割（何m³）がダムの上流にたまり、何割（何m³）が幅5mの放流孔を通り下流へ流れると想定しているのか。模型実験で放流孔をふさぐ流木はダムの水位が上がると浮くとしているが、枝葉や根、曲がった流木が流れてくる場合も想定すべきではないのか。流木と土砂、岩石が同時に流れてくることはないとしているが、同時に流れてくる場合も想定すべきではないのか。洪水のピークが二山ある洪水も想定すべきではないのか。
3. 熊本地震により、立野ダム建設現場の復旧や土砂崩壊対策工事等に膨大な国費が投入された一方で、国交省は立野ダムの総事業費を見直そうとはしない。総事業費はいくらになるのか。そのうち、熊本県負担はいくらになるのか。「立野ダム建設事業の検証に係る検討報告書」に、平成24年度迄実施済み額426.1億円、残事業490.9億円との記載がある。平成29年度末の実施済み額および残事業費を明らかにすること。平成24年時点の917億円を算定した以降、熊本地震の復旧工事を含め増額された項目と額を明らかにすること。平成24年の立野ダム事業検証の際には、他の治水対策案との事業費比較を検討し、公表している。現時点での他の治水対策案との事業費比較を明らかにすること。立野ダムの維持管理費は毎年いくらになるのか明らかにすること。
4. 平成24年の九州北部豪雨のあと、白川は河川激甚災害対策特別緊急事業に指定され、河川改修や遊水地の設置が大幅に進んだ。黒川の小倉遊水地は、毎秒140トンの洪水調節能力があるとの資料も存在する。黒川遊水地群の7つの遊水地で、毎秒何トンの洪水調節能力があるのか。また、河川改修後の計画

高水位で、毎秒 2000 トンを下回る地点はどこなのか、明らかにすること。

5. ユネスコの世界ジオパークに指定されている立野峡谷で、住民の知らぬ間に阿蘇火山の溶岩でできた柱状節理が国土交通省の工事で破壊された。立野ダム本体予定地右岸では、立野溶岩が柱状に縦に割れた柱状節理と、板状に横に割れた板状節理が 5～8 層交互に堆積しているさらに貴重な地質遺産が存在し、ダム本体工事が始まれば永遠に破壊されることも、ほとんどの住民は知ることもできない。世界文化遺産登録を目指す阿蘇にとり、立野ダム建設は大きなダメージを与えることが懸念される。これらを地元住民や自治体にきちんと説明する予定はあるのか。
6. 国土交通省は、昨年 7 月より「白川復旧・復興対策現地見学会」を 4 回開いたが、その開催は住民に周知されず、インターネット等で予約したごく少数の住民しか参加できなかった。また、事前に提出していた公開質問状への回答は一切なく、その場での質問に対しても「ホームページを見るように」と繰り返すばかりだった。これでは到底説明責任を果たしたと言えるものではない。立野ダム本体工事に着工する前に、白川流域の市町村ごと、熊本市にあつては白川沿いの中学校区ごとに立野ダム事業に関する説明会を開催し、住民の質問に真摯に答える意思はないのか。
7. 国交省は、これまで提出してきた住民の 8 通に及ぶ公開質問状には全く答えず、「ホームページで丁寧に説明している」との姿勢である。しかし、ホームページを見て質問しているのに、ホームページを見るというのはいかなるものか。これまで提出してきた 8 通の公開質問状の下記項目ごとに、国交省のホームページのどこを見れば回答が掲載されているのかを含め、きちんと文書で回答すること。

■これまで提出し、国交省より何ら回答を得ていない 8 通の公開質問状と質問項目の概要

- (1) 立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状 平成 25 年 10 月 1 日
 - ①放流孔呑口部のスクリーンや高さ 5 m のスリットダムが流木等でふさがらないという根拠
 - ②洪水時には、流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下するとする根拠
 - ③転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。
- (2) 立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状その 2 平成 25 年 11 月 15 日
 - ①放流孔呑口部のスクリーンのすき間（間隔）は何 cm なのか。そのすき間に流木等がつかまることは想定していないのか。
 - ②放流孔呑口部のスクリーンにはりついた流木等を、放流孔が吸い込む力と流木の浮力を具体的にどのように考えているのか。
 - ③平成 24 年 7 月洪水で、約何立方メートルの流木が立野ダム予定地を通過したのか。
 - ④平成 24 年 7 月洪水で、約何立方メートルの岩石および土砂が立野ダム予定地を通過したのか。
 - ⑤転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。
- (3) 立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状 平成 27 年 11 月 26 日
 - ①国交省資料「立野ダム常用洪水吐きにおける流木対策について」の模型実験は、いつ、誰が、どこで行ったのか。
 - ②模型の放流孔の上流側に、スクリーンは設置したのか。設置した場合、スクリーンの材質は何で、すき間は何ミリメートルだったのか。
 - ③模型実験に使用したラミン材やツマヨウジは、乾燥した木材である。また実験においては、密度の変化を防ぐためにニスを塗っている。しかし、洪水時に川を流下してくる木材は、水を含み非常に重くなっている。模型実験に用いたツマヨウジ等の比重は 0.73 となっているが、洪水時に実際に流れる流

木はツマヨウジ等の比重よりも大きいことは明らかである。その点についての見解を述べること。

- ④洪水時に実際に流れる流木は円柱ではなく、枝葉や根がついており、当然曲がったり直径が変化したりしている。それらが絡み合っスクリーンに貼り付いた場合を想定していない。その点についての見解を述べること。
- ⑤洪水時には、流木と同時に大量の土砂や火山灰、岩石も流れることは明らかであり、実験ではそれらを想定していない。その点についての見解を述べること。
- ⑥模型実験では、立野ダム地点を実際に流下する木材の量を把握していない。阿蘇カルデラは、特に阿蘇谷では現在も拡大しており、また杉やヒノキの人工林も荒れており、今後も土砂災害が発生し大量の流木が発生することが想定される。また、集水域 383 km²の阿蘇カルデラ内の流木が立野地点に集中することなどを考えると、1000本という数字に根拠はない。その点についての見解を述べること。
- ⑦同資料に掲載されている写真は、下記に示すように非常に不鮮明なものであり、模型実験の様子がよく理解できない。鮮明な写真をなぜ公開しないのか。
- ⑧住民が模型実験を見学することはできないのか。流域自治体の首長や議員に、模型実験を公開しないのか。

(4) 立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状 平成28年12月5日

- ①立野ダム建設予定地の地盤は健全なのか
- ②立野ダム水没予定地周辺にどのような地すべり対策をするのか。予算や工期を考えているのか
- ③立野ダム完成までに30万m³の掘削が必要ならば、予算や工期を考えているのか
- ④立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はないのか
- ⑤洪水時に流木などで立野ダムの穴はふさがらないのか

(5) 「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状 (その5)

平成29年5月24日

- ① 大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の土砂崩壊対策工事は不可能
- ② 崩壊土砂の搬出は不可能
- ③ 立野ダム放流孔 (高さ5m×幅5m) は流木の枝葉や根でふさがる
- ④ 年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか
- ⑤ 黒川遊水地群の洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか
- ⑥ 河川整備基本方針において立野ダムの洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか
- ⑥ 北向谷原始林側のダム本体工事用のケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか

(6) 「立野ダムの洪水調節 (CG動画)」等に関する公開質問状 (その6) 平成29年7月25日

- ①立野ダムの上流に設置される流木等捕捉施設 (スリットダム) は何m³までの流木に対処できるように計画されているのか
- ②幅5mの穴の上流側に設置されるスクリーン (金属製の柵) のすき間は何cmなのか
- ③流木等捕捉施設の上端は標高214m。上段の放流孔 (穴) の下端は標高215mであり、ダム湖の水位が流木等捕捉施設を超えた時点で、上段の放流孔 (穴) は全く水没していない。つまり、流木等捕捉施設は上段の放流孔には全く機能しない
- ④ 流木等捕捉施設を超えた流木は何秒でスクリーンに到達するのか。ダムの水位上昇は毎秒何mなのか
- ⑤ ダム満水時にダム放流孔の中、スクリーン表面、流木等捕捉施設付近での流速は秒速何mなのか
- ⑥ 洪水時、一時的に何m³の土砂が堆積し、そのうち何m³が幅5mの下段の穴 (放流孔) を通り下流に流れるのか
- ⑦ ダムの穴がふさがった場合、どのようにして流木を撤去するのか
- ⑧模型実験で円柱材のみを使用するのは妥当なのか。曲がった部材や枝や根も含めてやり直すべきではないか
- ⑨「立野ダム建設に係る技術委員会」の資料と実際の土砂崩壊箇所とが食い違っている。技術委員会の検討をやり直すべき

- (7) 世界ジオパーク指定の阿蘇・立野峡谷の柱状節理破壊と立野ダム本体予定地右岸の柱状節理に関する公開質問状（その7） 平成29年9月24日
- ①柱状節理の破壊にとりかかる前に、熊本県や地元きちんと説明していたのか。世界的に貴重な地形や地質等に十分配慮したと言えるのか。関係法令を遵守したとしているが、落ち度はなかったのか。国土交通省の見解を伺いたい。
 - ②立野ダム本体予定地右岸には、柱状節理と板状節理が5～8層交互に堆積している学術的にも極めて貴重な立野溶岩が存在し、立野ダム本体工事が始まれば幅200m、高さ90m、厚さ最大40mにわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれる。この点を熊本県や流域自治体、地元住民などに説明したのか。この件について、国土交通省の見解を伺いたい。
- (8) 10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表と立野ダム技術委員会に関する公開質問状（その8） 平成29年11月15日
- ①10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表を受け、いつ、どのような形で「立野ダム建設に係る技術委員会」は「確認・評価」を行ったのか。技術委員会の開催日時、参加した委員名、「確認・評価」を行った時間と、「確認・評価」を行った内容を明らかにしてください。
 - ②昨年8月17日開催の第3回「立野ダム建設に係る技術委員会」以降、同委員会を開催した事実はあるのか、明らかにしてください。今後も同委員会を開催する予定はあるのか、明らかにしてください。

【資料】



熊本地震後の立野ダム水没予定地。大半が土砂崩壊をしている。
水没予定地の底まで下りる道路がつくれないので、重機やダンプが下せない。
土砂崩壊対策工事も、土砂の搬出も不可能である。
ダムが建設され、水位が上がれば、湛水地すべりが起きることは明らかである。
(パスコ航空写真に加筆)

以上